

編集後記

夏の大阪の一大イベントといえ
ば、日本三大祭りに数えられる大
阪天神祭を挙げる向きも多いであ
ろう。一般には、テレビ中継の
ある大きな花火大会と思われて
いる節があるが、大阪天満宮の
主祭神である菅原道真公が、氏
地を陸と船からご視察するのが
本義である。祭礼としてのメイ
ンイベントは、多くの団体（講）
が運行するだんじりや獅子舞・
傘踊り、神輿などが長い列をな
して陸と川を進む陸渡御（りく
とぎょ）・船渡御（ふなとぎょ）
であり、国内外から多くの観
光客が訪れている。筆者も縁あ
って、2トンもの巨大な神輿を
奉ずる鳳講にて、今年の7月25
日に鳳神輿（おとりみこし）の
渡御列での運航に微力ながら奉
仕をさせていただく機会をいた
だいた。

天神祭は、天暦5（951）年の
大阪天満宮の創建期のころから
始まったとされ、千余年の歴史
を持っているが、その間には大
きな変化もあったと伝わってい
る。渡御列の終盤を飾る鳳神輿
は、元は主祭神である菅原道真
公を奉

ていたものであった。しかし、
江戸末期の大塩平八郎の乱によ
る大阪天満宮の消失や、明治期
の大きな社会変化を乗り越えて
いく中で、いつしか鳳神輿は祭
神を道真公の先祖である野見宿
禰（のみのすくね）に代え、勇
壮華麗な神輿の運行を今日の祭
りにつないでいる。

プラズマ・核融合分野におい
ても、近年、世界中での多くの
新興企業の勃興と新しく多様な
アプローチの出現という新しい
局面を迎えている。核融合エネ
ルギーという名称でさえも、フ
ュージョンエネルギーという新
しいものが広がりを持ち、これ
までになかったダイナミックな
変化のある時代に入ったといえ
よう。その中で、このプラズマ
・核融合学会誌も、その在り方
をどのようにすべきかを考える
べく、筆者が奉仕する編集委員
会において様々な議論がなされ
ている。毎月の会議での活発な
議論を通じて、本学会とプラズ
マ・核融合分野がいのち輝く未
来社会の実現につながっていく
ことを祈念して、この編集後記
を閉じさせていただきたい。（小
田靖久）

プラズマ・核融合学会 役員

会 長	花田磨砂也			
副 会 長	大野哲靖	坂本瑞樹（推薦委員長：学会賞・男女共同参画委員長）		
常務理事	榊原 悟（総務委員長）			
理 事	渥美寿雄	居田克巳	稲垣 滋（企画委員長）	井 通暁（年会運営委員長・研究部会連絡委員長）
	大原 渡	兒玉了祐（広報委員長）	古閑一憲（支部・地区研究連絡委員長）	
	坂本克也	仙波智行（財務委員長）	高木浩一	高橋幸司（企業展示検討委員長）
	田中康規	鳥養祐二	村上 泉（編集委員長）	山田弘司（推薦委員長：研究助成）
	吉田麻衣子			
監 事	前田達志	波多野雄治		

プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 大原 渡（山口大） 応 用 田中康規（金沢大） 核融合プラズマ 居田克巳（核融合研） 核融合炉工学 渥美寿雄（近畿大）

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：村上 泉（核融合研） 副委員長：鳥養祐二（茨城大）
エディタ：三瓶明希夫（京都工繊大）、重森啓介（阪大）、高橋裕己（核融合研）、石澤明宏（京大）、大矢恭久（静岡大）
編集委員：伊藤 悟（東北大）、犬伏雄一（JASRI）、太田雅人（核融合研）、小田靖久（摂南大）、梶田 信（東大）、
葛山 浩（鳥取大）、河内裕一（名大）、熊谷公紀（QST）、篠原正典（福岡大）、白戸高志（名大）、鈴木陽香（名大）、
瀬戸春樹（QST）、曾根宏隆（豊田自動織機）、高橋一匡（長岡技科大）、武村勇輝（核融合研）、中村友祐（名大）、
成田絵美（京大）、難波慎一（広島大）、沼波政倫（核融合研）、信太祐二（北大）、浜地志憲（核融合研）、
廣田 真（東北大）、松岡清吉（QST）、文 贊鎬（九大）、本島 巖（核融合研）、柳生義人（九大）、山崎広太郎（広島大）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第101巻第9号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <https://www.jspf.or.jp/> 定価1,430円（本体1,300円）
印 刷 株式会社荒川印刷
2025年（令和7年）9月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。